申命記 51回 「祝福とのろい」

申 28:1~29:1 (朗読 28:1~15)

1. はじめに

- (1) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)
 - ①第1の説教:歴史の回顧(1:5~4:43)
 - ②第2の説教:契約に基づく義務(4:44~26:19)
 - ③第3の説教:祝福とのろいの宣言(27:1~29:1)
 - ④第4の説教:契約条項のまとめ(29:2~30:20)
- (2) 第3の説教:祝福とのろいの宣言(27:1~29:1)
 - ①契約の更新(27:1~26)
 - ②祝福とのろい(28:1~68)
 - ③申命記 29 章 1 節
- (3) 文脈の確認
 - ①前回のメッセージで、「契約の更新」が終わった。
 - ②今回は、契約に伴う「祝福とのろい」について解説する。
 - ③驚くべきことに、のろいの部分が祝福の部分の4倍もある。
 - *古代中近東の宗主権契約では、それが一般的であった。
 - *のろいの部分は、イスラエルの将来の預言となっている。
- 2. メッセージのアウトライン
 - (1) 祝福の宣言 (28:1~14)
 - (2) のろいの宣言(28:15~68)
 - (3) 申命記 29 章 1 節の解釈
- 3. 結論:「のろい」の役割

祝福とのろいの宣言について学ぶ

- Ⅰ. 祝福の宣言(28:1~14)
 - 1. 1~2節

Deu 28:1 もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声に確かに聞き従い、私が今日あなたに命じる主のすべての命令を守り行うなら、あなたの神、【主】は、地のすべての国々の上にあなたを高く上げられる。

Deu 28:2 あなたが、あなたの神、【主】の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたについて行く。

- (1) 8つの聖書的契約には、無条件契約と条件付契約がある。
 - ①無条件契約とは、人間の側の不履行があっても破棄されることのない契約。
 - ②条件付契約とは、人間の側の不履行が契約破棄につながる契約。
- (2) シナイ契約は、条件付契約である。
 - ①イスラエルの民は、【主】の恵みによってエジプトから解放された。
 - ②【主】はその彼らと条件付契約を結ばれた。
 - ③彼らには、契約条項を守ることを条件に、祝福が約束された。
 - ④しかし、契約条項を守らなければ、のろいが来る。
 - ⑤契約条項を守るとは、【主】との交わりを楽しむことである。
- (3) 申 6:3 で、神の祝福が約束されていた。

Deu 6:3 イスラエルよ、聞いて守り行いなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたの父祖の神、【主】があなたに告げられたように、あなたは乳と蜜の流れる地で大いに増えるであろう。

- (4) 「あなたの神、【主】は、地のすべての国々の上にあなたを高く上げられる」 ①イスラエルの民は、異邦人諸国の上に立つようになる。
- 2. 3~6節

Deu 28:3 あなたは町にあっても祝福され、野にあっても祝福される。

Deu 28:4 あなたの胎の実も大地の実りも、家畜が産むもの、群れの中の子牛も群れの中の子羊も祝福される。

Deu 28:5 あなたのかごも、こね鉢も祝福される。

Deu 28:6 あなたは入るときにも祝福され、出て行くときにも祝福される。

- (1) 生活のあらゆる面で祝福を受ける。
 - ①町では商人が、野では農夫が祝福される。
 - ②人も家畜も、多産の祝福を受ける。
 - ③飢饉から守られ、食物が豊かに与えられるという祝福を受ける。
 - ④日常生活が、【主】の守りの中で祝される。
- 3. 7節

Deu 28:7 【主】は、あなたに向かい立つ敵どもをあなたの前で敗走させる。彼らは一つの道からあなたを攻めて来るが、あなたの前で七つの道に逃げ去る。

- (1) 諸国との戦いに勝利するという約束が与えられる。
 - ①敵は一つの道から攻めて来るが、七つの道に逃げ去る。
 - ②これは、圧倒的勝利、超自然的勝利の約束である。

4. 8節

Deu 28:8 【主】はあなたのために、あなたの穀物倉とあなたのすべての手のわざが祝福されるように命じられる。あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる地で、あなたを祝福される。

- (1) これは、農業生産が祝されるという約束である。
 - ①カナン人たちは、豊穣の神バアルを礼拝していた。
 - ②イスラエル人は、雨を降らせるのは【主】であることを知らねばならない。

5. 9~10節

Deu 28:9 あなたが、あなたの神、【主】の命令を守り主の道を歩むなら、【主】はあなたに誓われたとおり、あなたをご自分の聖なる民として立ててくださる。

Deu 28:10 地上のあらゆる民はあなたに【主】の名がつけられているのを見て、あなたを 恐れるであろう。

- (1) これは、高い名声(評判)が与えられるという約束である。
 - ①イスラエルの民は、【主】の聖なる民として立てられる。
 - ②諸国民は、【主】の所有であるイスラエルの民を恐れるようになる。

6. 11~14 節

Deu 28:11 【主】があなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われたその地で、【主】はあなたの胎の実、家畜が産むもの、大地の実りを豊かに恵んでくださる。

Deu 28:12 【主】はその恵みの倉、天を開き、時にかなって雨をあなたの地に与え、あなたのすべての手のわざを祝福される。それで、あなたは多くの国々に貸すが、借りることはない。

Deu 28:13 私が今日あなたに命じる、あなたの神、【主】の命令に聞き従い、守り行うなら、【主】はあなたをかしらとし、尾とはされない。あなたはただ上になり、下になることはない。

Deu 28:14 私が今日あなたがたに命じるこのすべてのことばから右や左に外れ、ほかの神々に従い、それに仕えてはならない。

- (1) 約束の地での祝福
 - ①多産の祝福
 - ②豊作の祝福
 - ③経済的繁栄の祝福

- ④国力が増すという祝福
 - *かしらとし、尾とはされない。
 - *ただ上になり、下になることはない。
- (2) これらの祝福を受けるための条件
 - ①申命記に記された命令から、外れてはならない。
 - ②偶像に仕えてはならない。

Ⅱ. のろいの宣言(28:15~68)

1. 15~19 節

Deu 28:15 しかし、もしあなたの神、【主】の御声に聞き従わず、私が今日あなたに命じる、主のすべての命令と掟を守り行わないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたをとらえる。

Deu 28:16 あなたは町にあってものろわれ、野にあってものろわれる。

Deu 28:17 あなたのかごも、こね鉢ものろわれる。

Deu 28:18 あなたの胎の実も大地の実りも、群れの中の子牛も群れの中の子羊ものろわれる。

Deu 28:19 あなたは入るときにものろわれ、出て行くときにものろわれる。

(1) 不従順になれば、のろいが下る。

①申 28:3~6に出て来た祝福の裏返しである。

- 2. 要約 (20~68節)
 - (1) イスラエルの破滅の予告(20節)
 - *それぞれののろいは、イスラエルの民を悔い改めに導くためのものである。
 - (2) 疫病の予告 (21~22節)
 - *人間だけでなく、農作物も被害に遭う。
 - (3) 干ばつの予告(23~24節)
 - *「乳と蜜の流れる地」が、荒野となる。
 - (4) 敗戦の予告 (25~26節)
 - *戦死者を葬る人さえいなくなる。
 - (5) エジプトの疫病の予告(27~29節)
 - *肉体と精神の病を経験し、自分を守れなくなる。
 - (6) 抑圧と略奪の予告(30~35節)
 - *【主】の守りがなくなるので、外敵に滅ぼされる。
 - (7) 捕囚の予告 (36~37節)
 - *諸国の頭ではなく、尾となる。

- (8) 不作と経済不況の予告 (38~44節)
 - *どれほど労苦しても、いなごや虫の害が襲って来る。
- (9) のろいの理由(45~48節)
 - *【主】の御声に聞き従わなかったことが、のろいの理由である。
- (10) 包囲された町の恐怖 (49~57節)
 - *最悪の2つののろい(包囲と捕囚)が、最後まで取っておかれた。
- (11) 疫病と捕囚による破滅 (58~68節)
 - *最後は、バビロン捕囚の預言である。

Ⅲ. 申命記 29 章 1 節

Deu 29:1 これらは、モアブの地で、【主】がモーセに命じて、イスラエルの子らと結ばせた契約のことばである。ホレブで彼らと結ばれた契約とは別である。

- 1. 2 つの解釈がある。
 - (1) 第3の説教の締めくくりと考える。
 - ①ヘブル語聖書は、申 29:1 を申 28:69 としている。*つまり、申 29:1 を第3の説教の締めくくりと考えているのである。
 - ②新共同訳も、ヘブル語聖書に倣っている。 *ただし、訳文を見ると、第4の説教の始まりと解釈している。
 - (2) 第4の説教の始まりと考える。
 - ①七十人訳聖書は、この聖句を申29:1としている。
 - ② (新改訳 2017) (口語訳) (文語訳) (KJV) (ASV) は、それを採用。
- 3. 次回は、申29:1を第4の説教の始まりと解釈して、メッセージを語る。
 - (1) 内容は、「土地の契約」の解説である。

結論:「のろい」の役割

- 1. のろいは、神の怒りの表現である。
 - (1) 罪に対する神の怒りを軽視するという現代の風潮がある。
 - (2) モーセは、神の怒りを割り引くことなしにイスラエルの民に伝えた。
 - (3) 第3の説教の最後は、イスラエルの滅びを預言するものとなっている。
 - (4) パウロも、神の怒りを割り引くことなしに伝えた。

①ガラ3:10

Gal 3:10 律法の行いによる人々はみな、のろいのもとにあります。「律法の書に書いてあるすべてのことを守り行わない者はみな、のろわれる」と書いてあるからです。

②ガラ3:13

Gal 3:13 キリストは、ご自分が私たちのためにのろわれた者となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。「木にかけられた者はみな、のろわれている」と書いてあるからです。

- (5) 神の怒りを知る人は、救いの素晴らしさを知る人である。
- 2. のろいは、教育的目的を持っている。
 - (1) のろいは、神の義の本質を教えている。
 - (2) のろいは、イスラエルの民を【主】に立ち返らせる力となる。
 - (3) バビロン捕囚後、イスラエルの民は偶像礼拝から解放された。
 - (4) しかし、イエスを拒否したので、再び国を追われた。
 - (5) 黙示録に預言された大患難は、イスラエルの民を救いへと導く。
 - (6) 試練の時は、神に立ち返る時である。

申命記 52 回 「土地の契約」

申 29:1~30:20 (朗読 30:1~10)

1. はじめに

- (1) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)
 - ①第1の説教:歴史の回顧(1:5~4:43)
 - ②第2の説教:契約に基づく義務(4:44~26:19)
 - ③第3の説教:祝福とのろいの宣言(27:1~29:1)
 - ④第4の説教:契約条項のまとめ(29:2~30:20) *第4の説教の内容は「土地の契約」である。
- (2) 土地の契約(29:1~30:20)
 - ①イントロダクション (29:1)
 - ②歴史の回顧(29:2~8)
 - ③契約締結の勧め (29:9~15)
 - ④不従順に下るのろい (29:16~29)
 - ⑤土地の契約の条項 (30:1~10)
 - ⑥いのちか死かの選択(30:11~20)
 - *長いので、契約条項に的を絞って説明する。
- 2. メッセージのアウトライン
 - (1) イントロダクション (29:1)
 - (2) 土地の契約の条項(30:1~10)
- 3. 結論:土地の契約から学ぶ教訓

土地の契約について学ぶ

- I. イントロダクション(29:1)
 - 1. 申命記 29 章 1 節の重要性

Deu 29:1 これらは、モアブの地で、【主】がモーセに命じて、イスラエルの子らと結ばせた契約のことばである。ホレブで彼らと結ばれた契約とは別である。

- (1) これを第3の説教の締めくくりとする解釈がある。
 - ①ヘブル語聖書は、申29:1を申28:69としている。

*つまり、申29:1を第3の説教の締めくくりと考えているのである。

②新共同訳も、ヘブル語聖書に倣っている。

(2) これを第4の説教の始まりと考える解釈もある。

- ①七十人訳聖書は、この聖句を申29:1としている。
- ② (新改訳 2017) (口語訳) (文語訳) (KJV) (ASV) は、それを採用。

(3) 私も、これを第4の説教の始まりと解釈する。

- ①「ホレブで彼らと結ばれた契約とは別である」
- ②シナイ契約とは別の契約である。
- ③これを土地の契約(かつてはパレスチナ契約と言った)を呼ぶ。*パレスチナ契約とは、不適切な呼称である。*バル・コクバの乱(紀元 132~135 年)の後、ハドリアヌス帝が命名。*現在、パレスチナという呼称は、アラブ人を想起させる。
- ④シナイ契約は条件付契約である。
- ⑤土地の契約は、アブラハム契約の土地の条項が発展したものである。
- ⑥土地の契約は、必然的に無条件契約となる。 *所有権と占有権(居住権)を区別しておく必要がある。
- 2. 契約条項に入る前に、3つの重要な項目が確認される。
 - (1) 歴史の回顧(29:2~8)
 - ①出エジプト以来、【主】がいかに忠実なお方だったかが確認される。
 - ②歴史の回顧は、契約を履行するための動機となる。
 - (2) 契約締結の勧め (29:9~15)
 - ①この契約は、将来のイスラエルの民とも結ばれるものである。
 - (3) 不従順に下るのろい(29:16~29)
 - ①不従順になるなら、イスラエルは滅びる。
 - ②異邦の民は、【主】はイスラエルをほかの地に投げ捨てたと言う。
- 3. 契約条項が宣言された後、「いのちか死か」の選択が迫られる(30:11~20)。 Deu 30:19 私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、

Deu 30:20 あなたの神、【主】を愛し、御声に聞き従い、主にすがるためである。まことにこの方こそあなたのいのちであり、あなたの日々は長く続く。あなたは、【主】があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われたその土地の上に住むことになる。

Ⅱ. 土地の契約の条項 (30:1~10)

1. イスラエルの不信仰と、世界への離散が預言される(30:1)。

Deu 30:1 私があなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたの神、【主】があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたが我に返り、

- (1) モーセは、【主】への不従順は滅びに至ると厳しく警告した。
- (2) しかし彼は、偶像礼拝のゆえに、民が諸国に離散することを知っていた。
- (3) と同時に、遠い将来の希望も見ていた。
- (4) 離散は、最終的なものではない。
- (5) 契約条項の2~7は、イスラエルの回復のステップを預言したものである。
- 2. イスラエルは、離散の地で悔い改める(30:2)。

Deu 30:2 あなたの神、【主】に立ち返り、私が今日あなたに命じるとおりに、あなたも、 あなたの子どもたちも、心を尽くし、いのちを尽くし、御声に聞き従うなら、

- (1) これは、イスラエルの悔い改めの預言である。
- (2) 【主】への立ち返りが、イスラエルの民の唯一の希望である。
- 3. その時、メシアが戻って来られる(30:3a)

Deu 30:3a あなたの神、【主】はあなたを元どおりにし、

(1) 訳文の比較

「【主】はあなたを元どおりにし、」 (新改訳 2017)

「主はあなたの運命を回復し、」(新共同訳)

「主はあなたを再び栄えさせ、」(口語訳)

The LORD thy God will turn thy captivity, (KJV)

[Jehovah thy God will turn thy captivity,] (ASV)

- (2) その意味は、囚われの状態から解放するということである。
- (3) これが起るのは、メシアの再臨の時である。
- 4. イスラエルは、再び約束の地に集められる(30:3b~4)。

Deu 30:3b あなたをあわれみ、あなたの神、【主】があなたを散らした先の、あらゆる民の中から、再びあなたを集められる。

Deu 30:4 たとえ、あなたが天の果てに追いやられていても、あなたの神、【主】はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ戻される。

- (1) これは、イスラエルの民の約束の地への帰還の預言である。
- (2) マタ 24:31

Mat 24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

5. イスラエルは、約束の地を所有する(30:5)。

Deu 30:5 あなたの神、【主】はあなたの先祖が所有していた地にあなたを導き入れ、あなたはそれを所有する。主はあなたを幸せにし、先祖たちよりもその数を増やされる。

- (1) イスラエルは、かつてなかったような物質的繁栄を経験する。
- 6. イスラエルは、霊的生まれ変わりを体験する(30:6)。

Deu 30:6 あなたの神、【主】は、あなたの心と、あなたの子孫の心に割礼を施し、あなたが心を尽くし、いのちを尽くして、あなたの神、【主】を愛し、そうしてあなたが生きるようにされる。

- (1) かつての不従順な心が、【主】を愛する心に変えられる。
- (2) これは新しい契約の基本的な要素である新生体験の預言である。
- (3) 新しい契約自体は、それから数百年後、エレミヤによって預言される。
- (4) この預言は、メシアの再臨までは成就することがない。
- 7. イスラエルは、メシア的王国の祝福を受ける(30:8~10)。

Deu 30:8 あなたは再び【主】の御声に聞き従い、私が今日あなたに命じる主のすべての命令を行うようになる。

Deu 30:9 あなたの神、【主】はあなたのすべての手のわざ、あなたの胎の実、家畜が産むもの、大地の実りを豊かに与えて、あなたを栄えさせてくださる。まことに【主】は、あなたの父祖たちを喜ばれたように、再び、あなたを栄えさせて喜ばれる。

Deu 30:10 これは、あなたが、あなたの神、【主】の御声に聞き従い、このみおしえの書に記されている主の命令と掟を守り、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたの神、【主】に立ち返るからである。

- (1) ここに約束された祝福は、メシア的王国で成就する。
- (2) 祝福の理由は、新生体験をしたイスラエルが【主】に従順に歩むからである。

結論:土地の契約から学ぶ教訓

- 1. 土地の契約は、アブラハム契約の土地に関する条項が発展したものである。
 - (1) アブラハムの子孫に土地の所有が約束が与えられた。
- 2. しかし、不従順のためにヤコブとその子孫は400年間エジプトに住んだ。

- 3. 出エジプト後、彼らは約束の地の一部を所有した。
- 4. ところが、再び不従順に陥り、アッシリヤ捕囚、バビロン捕囚を経験した。
- 5. 70年後にバビロンから帰還し、再び約束の地の一部を回復した。
- 6. 紀元70年にエルサレムが滅び、彼らは再び離散の民となった。
- 7. しかし、土地の契約は、イスラエルの民の約束の地への帰還を約束している。
 - (1) 旧約聖書の預言者たち
 - ①イザヤ 11:11~12
 - ②エレミヤ23:3~8
 - ③エゼキエル 37:21~25
 - **④アモス9:9~15**
 - (2) すべてメシア的王国の預言である。
- 8. イスラエル建国 (1948年) は、終末時代という観点から重要なものである。
 - (1) イスラエルの物理的回復
 - (2) イスラエルの霊的回復(ホセ2:14~16、ロマ11:26~27)
 - (3) 安全と繁栄 (アモ9:11~15)
 - (4) イスラエルの敵に対する神の裁き
 - ①イザ 14:1~2
 - ②ヨエ3:1~8
 - ③マタ 25:31~46
- 9. 聖書は、ユダヤ的視点から字義通りに読む必要がある。

申命記 53回 「モーセからヨシュアへ」 申 31:1~29

(朗読 申 31:1~13)

- 1. はじめに
 - (1) 4 つの説教が終わった。
 - (2) リーダーシップの移行がテーマとなる(31~34章)。
 - ①モーセからヨシュアへ (31:1~29)
 - ②モーセの歌 (31:30~32:43)
 - ③モーセの死の予告 (32:44~52)
 - ④モーセの祝福のことば(33章)
 - ⑤モーセの死 (34章)
- 2. モーセからヨシュアへ (31:1~29)
 - (1) 公の場での任命 (1~8節)
 - (2) 律法の朗読 (9~13節)
 - (3) 私的場での任命(14~23節)
 - (4) 律法の書の保管 (24~29節)
- 3. 結論
 - (1) 神の計画の前進
 - (2) 【主】のみおしえの朗読

ヨシュアの任命について学ぶ。

- Ⅰ. 公の場での任命(1~8節)
 - 1. 1~2 節

Deu 31:1 それからモーセは行って、次のことばをイスラエル全体に告げて、

Deu 31:2 彼らに向かって言った。/「私は今日、百二十歳だ。もう出入りすることができない。【主】は私に『あなたはこのヨルダン川を渡ることはできない』と言われた。

- (1) モーセは、イスラエル全体に語りかけた。
 - ①彼は120歳になったが、気力は衰えていなかった。
 - ②申 34:7

Deu 34:7 モーセが死んだときは百二十歳であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。

③しかし彼は、「出入りすることができない」。

*戦争の指揮ができないという意味

- ④【主】も、モーセがヨルダン川を渡ることを禁じておられた。 * 民 20:1~13
- (2) 王朝継承の儀式の規定は、通常の宗主権契約の一部である。 ①モーセは、公の場で、ヨシュアを次期リーダーとして任命しようとしている。

2. 3~6節

Deu 31:3 あなたの神、【主】ご自身があなたに先立って渡って行き、この方があなたの前からこれらの国々を根絶やしにされ、あなたはこれらを占領する。ヨシュアが、【主】が告げられたように、あなたに先立って渡るのだ。

Deu 31:4 【主】は、主が根絶やしにした、アモリ人の王シホンとオグおよび彼らの国に対して行ったように、彼らに対しても行われる。

Deu 31:5 【主】は彼らをあなたがたに渡される。あなたがたは、私が命じたすべての命令 どおり、彼らに行わなければならない。

Deu 31:6 強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、【主】ご自身があなたとともに進まれるからだ。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」

- (1) 人は死んでも、【主】の計画はそのまま継続する。
 - ①イスラエルに対する神の計画は、指導者によって左右されるものではない。
 - ②契約に忠実な【主】が、約束を成就されるのである。
- (2) 【主】ご自身が先頭に立って戦われる。
 - ①イスラエルの民は、【主】によってその地を占領する。
 - ②アモリ人の王シホンとオグを滅ぼしたように、【主】はカナン人を滅ぼす。
 - ③民は、ヨシュアをリーダーとして、【主】の命令に従う必要がある。
- (3) モーセからの励ましの言葉
 - ①強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない。おののいてはならない。
 - ②理由は、【主】ご自身がともに進まれるから。

3. 7~8節

Deu 31:7 それからモーセはヨシュアを呼び寄せ、全イスラエルの目の前で彼に言った。 「強くあれ。雄々しくあれ。【主】がこの民の父祖たちに与えると誓われた地に、彼らとと もに入るのはあなたであり、それを彼らに受け継がせるのもあなたである。 Deu 31:8 【主】ご自身があなたに先立って進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」

- (1) 次にモーセは、ヨシュアを呼び寄せた。
 - ①そして、全イスラエルの目の前でヨシュアに語りかけた。
 - ②これは、ヨシュアを次期リーダーとして任命するための公の儀式である。
 - ③これで、世代交代が円滑に行われた。
 - ④ヨシュアへの励ましの言葉は、イスラエルの民に語ったものと同じである。

Ⅱ. 律法の朗読 (9~13節)

1. 9節

Deu 31:9 モーセはこのみおしえを書き記し、【主】の契約の箱を運ぶレビ族の祭司たちと、イスラエルのすべての長老たちにこれを与えた。

- (1) 将来にわたって契約条項を確認するのは、宗主権契約に含まれる条項である。 ①契約の効力は、後の世代にも及ぶ。
- (2) 「このみおしえ」とは、申命記全体である。
 - ①モーセは、みおしえの書をレビ族の祭司たちとすべての長老たちに与えた。
 - ②イスラエルの民に律法を教えるのは、祭司たちの任務であった。

2. 10~11節

Deu 31:10 モーセは彼らに命じた。「七年の終わりごとに、すなわち免除の年の定めの時、 仮庵の祭りに、

Deu 31:11 イスラエル全体が、主が選ばれる場所に、あなたの神、【主】の前に出るためにやって来たとき、あなたはイスラエル全体の前で、彼らの耳にこのみおしえを読んで聞かせなければならない。

- (1) モーセは、公の場での律法の朗読を祭司たちに命じた。
 - ①律法の朗読は、7年の終わりごとに行う。
 - ②7年目は、負債免除の年である。
 - ③7年目の仮庵の祭り(秋の祭り)で、それを行う。
 - ④【主】が選ばれる場所で、それを行う。 *幕屋がある場所か神殿がある場所(エルサレム)

3. 12~13節

Deu 31:12 民を、男も女も子どもも集めなさい。あなたの町囲みの中にいる寄留者も。彼らがこれを聞いて学び、あなたがたの神、【主】を恐れ、このみおしえのすべてのことばを守り行うようにするためである。

Deu 31:13 これを知らない、彼らの子どもたちもこれを聞き、あなたがたがヨルダン川を 渡って所有しようとしている地で、彼らが生きるかぎり、あなたがたの神、【主】を恐れる ことを学ばなければならない。」

- (1) 巡礼祭は、年に3度巡ってくる。
 - ①過越の祭り、五旬節、仮庵の祭り
 - ②巡礼祭で【主】が選ばれる場所に上るのは、イスラエルの男子の義務である。 * 自発的に、妻や子どもを同行させる者たちもいた。
 - ③しかし、7年目の仮庵の祭りでは、女と子どもも参加するように命じられた。
- (2) 新しい世代が、【主】を恐れることを学ぶためである。
 - ①ここで語られているのは、次世代への契約の継承である。

Ⅲ. 私的場での任命(14~23節)

1. 14~15 節

Deu 31:14 それから【主】はモーセに言われた。「今や、あなたの死ぬ日が近づいている。 ヨシュアを呼び寄せ、あなたがたは会見の天幕に立て。わたしは彼に命令を下そう。」モー セとヨシュアは行って、会見の天幕に立った。

Deu 31:15 【主】は天幕で雲の柱のうちに現れた。雲の柱は天幕の入り口にとどまった。

- (1) 公の場でのヨシュアの任命は終わった。
 - ①ここでは、私的場での任命が行われる。
 - ②モーセとヨシュアが、幕屋に立った。

*これは、【主】の前に立つことと同じ意味である。

- (2) 【主】は、雲の柱のうちに現れた。
 - ①この雲の柱は、【主】の臨在を示すシャカイナグローリーである。

2. 16~18節

Deu 31:16 【主】はモーセに言われた。「見よ、あなたは間もなく先祖とともに眠りにつこうとしている。この民は入って行こうとしている地の異国の神々を慕い、自分たちのうちで淫行を行い、わたしを捨てて、わたしがこの民と結んだわたしの契約を破る。

Deu 31:17 その日、わたしの怒りはこの民に対して燃え上がり、わたしも彼らを捨て、わたしの顔を彼らから隠す。彼らが焼き尽くされ、多くのわざわいと苦難が彼らに降りかかると、その日この民は、『これらのわざわいが私たちに降りかかるのは、私たちのうちに私たちの神がおられないからではないか』と言う。

Deu 31:18 わたしはその日、彼らが行ったすべての悪のゆえに必ずわたしの顔を隠す。彼らがほかの神々の方に向かったからである。

- (1) モーセは、イスラエルの民のために生涯を献げて奉仕をして来た。
 - ①今彼は、地上生涯を終えようとしている。
 - ②その段階で、民が堕落するという悲しい予告を【主】から聞かされた。
- (2) 【主】による預言
 - ①カナンの地で、民は異国の神々を慕うようになる。
 - ②民は、【主】との契約を破る。
 - ③【主】の怒りが彼らの上に下る。 *わたしの顔を彼らから隠すとは、臨在が取り去られるということ。 *多くのわざわいと苦難が民の上に降りかかる。
 - ④民は、神から見捨てられたことに気づく。
 - ⑤しかし、民は苦難の中にあって、【主】の恵みを見出すようになる。
 - ⑥次に出て来るモーセの歌は、【主】の恵みについて教えている。
 - ⑦またモーセの歌は、背教に対する警告にもなっている。

3. 19~22 節

Deu 31:19 今、次の歌を書き記し、それをイスラエルの子らに教え、彼らの口にそれを置け。この歌をイスラエルの子らに対するわたしの証しとするためである。

Deu 31:20 わたしが彼らを、彼らの父祖たちに誓った乳と蜜の流れる土地に導き入れるとき、彼らは食べて満ち足り、肥え太り、そして、ほかの神々の方に向かってこれに仕え、わたしを侮ってわたしの契約を破る。

Deu 31:21 多くのわざわいと苦難が降りかかるとき、この歌が彼らに対して証しをする。彼らの子孫の口からそれが忘れられることはないからである。わたしが誓った地に彼らを導き入れる以前から、彼らが今しようとしている計画を、わたしはよく知っているからである。」

Deu 31:22 モーセは、その日、この歌を書き記してイスラエルの子らに教えた。

- (1) 【主】はモーセに、ひとつの歌を書き記すように命じた。
 - ①モーセはそれをイスラエルの民に教えた。
 - ②この歌は、イスラエルの民に対して【主】を証しするものとなる。
 - ③イスラエルの民は、わざわいと苦難の中で、この歌を思い出して歌う。
 - ④民は、カナン定住のはるか前から、【主】が計画を持っておられたことを知るようになる。
- (2) モーセは、【主】の命令通りにこの歌を書き記し、イスラエルの民に教えた。 ①イスラエルの民に希望を与えるための歌である。

4. 23 節

Deu 31:23 それから主はヌンの子ョシュアに命じられた。「強くあれ。雄々しくあれ。あなたはイスラエルの子らを、わたしが彼らに誓った地に導き入れるのだ。わたしが、あなたとともにいる。」

- (1) ヨシュアは、【主】から直接任命を受けた。
 - ①ヨシュアは、【主】のことばによって大きな励ましを受けた。

Ⅳ. 律法の書の保管 (24~29節)

1. 24~26 節

Deu 31:24 モーセがこのみおしえのことばを、その最後まで書物に書き終えたとき、

Deu 31:25 モーセは【主】の契約の箱を運ぶレビ人に命じた。

Deu 31:26 「このみおしえの書を取り、あなたがたの神、【主】の契約の箱のそばに置きなさい。その場所で、あなたに対する証しとしなさい。

- (1) 契約書の保管は、宗主権契約の条項に含まれるものである。
 - ①「このみおしえのことば」とは、申命記全体のことである。
 - ②その書物が完成したとき、モーセは【主】の契約の箱を運ぶレビ人に命じた。
- (2) レビ人は、律法の書を契約の箱のそばに置く。
 - ①契約の箱の中には、十戒を記した石の版二枚が入れられていた。
 - ②この書は、背教に対する警告の書となった。

2. 27~29節

Deu 31:27 私は、あなたがどれほど逆らう者であるか、うなじを固くする者であるかをよく知っている。見よ。私があなたがたとともに生きている今でさえ、あなたがたは【主】に逆らってきた。私の死後は、なおさらであろう。

Deu 31:28 あなたがたの部族の長老たちと、つかさたちをみな、私のもとに集めなさい。 私はこれらのことばを彼らに聞こえるように語ろう。私は天と地を彼らに対する証人に立 てる。

Deu 31:29 私の死後、あなたがたがきっと堕落して、私があなたがたに命じた道から外れること、また、後の日に、わざわいがあなたがたに降りかかることを私はよく知っているからだ。それは、あなたがたが【主】の目に悪であることを行い、あなたがたの手のわざによって主の怒りを引き起こすからである。」

(1) モーセは、【主】から教えられた歌を全集会の前で唱えようとしている。

①申 31:30

Deu 31:30 モーセはイスラエルの集会全体に聞こえるように、次の歌のことばを終わりまで唱えた。

- (2) しかしモーセは、民全体に向かって怒りの言葉を発している。
 - ①義憤が彼の心の中にある。
 - ②イスラエルの民に対する深い失望が彼の心の中にある。

結論

1. 神の計画の前進

- (1) リーダーが死んでも、神の計画は前進する。
 - ①人間的には、モーセ亡き後の民の状態を想像することができない。
 - ②しかし神は、次世代のリーダーとしてヨシュアを用意しておられた。
- (2) イスラエルの民が神に反抗しても、神の計画は前進する
 - ①【主】は、イスラエルの民の背教と苦難を預言された。
 - ②と同時に、苦難からの逃れの道を用意しておられた(モーセの歌)。
- (3) 悪魔が暗躍しても、神の計画は前進する。
 - ①悪魔の戦略は、イスラエルの民を滅ぼすことである。
 - ②神は、アブラハムに約束したことを必ず成就される。

2. 【主】のみおしえの朗読

- (1) みおしえの朗読の重要性を認識しよう。
 - ①当時は、聖書の写本を個人が所有することは、ほぼなかった。
 - ②みおしえの朗読と暗記が、学びの中心であった。
 - ③みおしえを暗記する人が増えれば、背教に対する抵抗力が付く。
- (2) 幼少期から、律法の学びを開始しよう。
 - ①イスラエル人の子どもたちは、両親やレビ人から律法を学んだ。
 - ②7年目の仮庵の祭りでエルサレムに上り、公に行われる朗読に耳を傾ける ことは、子どもの心に深い印象を与えた。
 - ③みおしえを知らなければ、【主】への恐れは生まれて来ない。
- (3) 信仰を行動に移そう。
 - ①7年ごとにエルサレムで律法の朗読を聞くのは、信仰の成長につながる。
 - ②当時は、巡礼の旅に出ること自体が信仰の実践であった。
 - ③留守にする家の心配、旅の費用の心配、道中の安全の心配
 - ④信仰がなければ、この命令に従うのは難しい。

申命記 54回 「モーセの歌 (1) _|

申 $31:30\sim 32:18$

(朗読 $申 31:30\sim 32:9$)

1. はじめに

- (1) 4 つの説教が終わると、リーダーシップの移行がテーマとなる ($31\sim34$ 章)。
 - ①モーセからヨシュアへ (31:1~29)
 - ②モーセの歌 (31:30~32:43)
 - ③モーセの死の予告 (32:44~52)
 - ④モーセの祝福のことば(33章)
 - ⑤モーセの死 (34章)
- (2) モーセの歌の文脈

①申 31:19

Deu 31:19 今、次の歌を書き記し、それをイスラエルの子らに教え、彼らの口にそれを置け。この歌をイスラエルの子らに対するわたしの証しとするためである。

②申 31:21

Deu 31:21 多くのわざわいと苦難が降りかかるとき、この歌が彼らに対して証しをする。 彼らの子孫の口からそれが忘れられることはないからである。わたしが誓った地に彼らを 導き入れる以前から、彼らが今しようとしている計画を、わたしはよく知っているからである。」

③申 31:30

Deu 31:30 モーセはイスラエルの集会全体に聞こえるように、次の歌のことばを終わりまで唱えた。

- ④申命記は、宗主権契約の形式で書かれた契約の書である。
- ⑤新しい世代のイスラエルが、モアブの野でシナイ契約を更新した。
- ⑥モーセはこの歌を民に教え、契約更新の際に歌わせた。
- ⑦モーセの歌は「付録」ではなく、申命記の中の不可欠な要素である。
- (3) モーセの歌には預言的要素がある。
 - ①この歌は、【主】が真実なお方であることを証言している。
 - ②イスラエルの民が背信の民となることを預言している。
 - ③【主】がイスラエルの民に憐れみを示されることを預言している。
 - ④【主】がイスラエルの民の敵に復讐されることを預言している。

- 2. モーセの歌の内容(31:30~32:43)
 - (1) イントロダクション (1~3節)
 - (2) 真実な神と不真実な民(4~9節)
 - (3) イスラエルに注がれた神の愛(10~14節)
 - (4) 繁栄がもたらす罠 (15~18節)
 - (5) 背信の民に下る【主】のさばき(19~27節)
 - (6) 思慮の欠けた国民(28~33節)
 - (7) 神の憐れみと復讐(34~43節)
- 3. 結論
 - (1) 【主】のご性質(申32:4)
 - (2) 国々の相続地 (申 32:8)
 - (3) 繁栄がもたらす罠 (申 32:15)

モーセの歌について学ぶ。

- Ⅰ. イントロダクション(1~3節)
 - 1. 1~3節

Deu 32:1 天よ、耳を傾けよ。私は語ろう。/地よ、聞け。私の口のことばを。

Deu 32:2 私のおしえは雨のように下り、/私のことばは露のように滴る。/若草の上の小雨のように。/青草の上の夕立のように。

Deu 32:3 まことに私は【主】の御名を告げ知らせる。/栄光を私たちの神に帰せよ。

- (1) ヘブル詩の対句法が見事に展開されている。
 - ①天と地に訴えかけている。
 - ②この歌の内容が、被造世界全体に影響を及ぼすものだからである。
- (2) 申命記とモーセの歌を熱心に学ぶ者は、大いに祝福される。 ①その人は、雨や露が若草や青草を潤すように、豊かにされる。
- (3) この歌を学べば、【主】がどういうお方であるかが分かる。
 - ①【主】に信頼し、【主】に栄光を帰す人は、大いに祝福される。

Ⅱ. 真実な神と不真実な民(4~9節)

1. 4節

Deu 32:4 主は岩。主のみわざは完全。/まことに主の道はみな正しい。/主は真実な神で偽りがなく、/正しい方、直ぐな方である。

(1) 主は岩である。

- ①動かされることがなく、不変で、永遠に存在しておられる。
- ②この岩に信頼を置く者は、決して揺るがされることがない。
- (2) 主のみわざは完全で、主の道はみな正しい。
 - ①古代中近東の神々は、移り気で不道徳なこともすると信じられていた。 *予測不可能な神々
 - ②それに対して、イスラエルの神は常に正しいことを行われる。 *契約に基づいて行動される神
 - ③イスラエルの神は、人類に対して不正を働くことはない。

2. 5~6節

Deu 32:5 自分の汚れで主との交わりを損なう、/主の子らではない、よこしまで曲がった世代。

Deu 32:6 あなたがたはこのようにして【主】に恩を返すのか。/愚かで知恵のない民よ。 /主はあなたを造った父ではないか。/主はあなたを造り上げ、/あなたを堅く立てた方ではないか。

- (1) ここで、主の真実な姿とイスラエルの民の不真実な姿の対比が行われる。
 - ①イスラエルの民は、恩を仇で返すようになる。
 - ②【主】はイスラエルの民を造った父であるが、民には父の面影がなくなる。
 - ③【主】が父であることを嘘だと思うなら、父や長老たちに問えばよい。

3. 7~9節

Deu 32:7 昔の日々を思い出し、/代々の年を思え。/あなたの父に問え。/彼はあなたに告げ知らせる。/長老たちに問え。/彼らはあなたに話す。

Deu 32:8 いと高き方が、国々に相続地を持たせ、/人の子らを割り振られたとき、/イスラエルの子らの数にしたがって、/もろもろの民の境を決められた。

Deu 32:9 【主】は、測り縄で割り当て地を定められた。/ご自分の民、ヤコブへのゆずりの地を。

- (1) イスラエルの歴史を若い世代に教えるのは、父と長老たちの役割である。
 - ①【主】は、国々(異邦人諸国)にそれぞれの相続地を割り振られた。
 - ②領土の境は、その地で生活するイスラエルの子らの数に従って決められた。
 - ③【主】は、ご自分の民ヤコブのために、カナンの地を用意された。
 - ④今民が征服しようとしているのは、そのカナンの地である。

Ⅲ. イスラエルに注がれた神の愛(10~14節)

1. 10~12 節

Deu 32:10 主は荒野の地で、/荒涼とした荒れ地で彼を見つけ、/これを抱き、世話をし、 /ご自分の瞳のように守られた。

Deu 32:11 鷲が巣のひなを呼び覚まし、/そのひなの上を舞い、/翼を広げてこれを取り、/羽に乗せて行くように。

Deu 32:12 ただ【主】だけでこれを導き、/主とともに異国の神はいなかった。

- (1) 主の守り
 - ①主は荒野の地(エジプト)で、イスラエルを守り育てた。
 - ②主は、イスラエルをご自分の瞳のように守られた。
 - ③鷲とひなのたとえを用いて、主が民に与えた訓練が描写される。 *鷲は、ひなを巣から追い出し、訓練する。 *ひなが落ちそうになると、翼を広げて救出する。
 - ④【主】は、偶像の神の介入なしに、イスラエルを守り育てた。
- 2. 13~14節

Deu 32:13 主はこれを地の高い所に上らせ、/野の産物を食べさせた。/主は岩からの蜜と/硬い岩からの油でこれを養い、

Deu 32:14 牛の凝乳と羊の乳を/最良の子羊とともに、/バシャンのものである雄羊と雄やぎを/小麦の最良のものとともに、与えてくださった。/あなたは泡立つぶどう酒を飲んだ。

- (1) この2節は、カナンの地征服の預言である。
 - ①イスラエルの民は、カナンの地の高原に上り、戦いに勝利する。
 - ②民の生活は、その地の産物で豊かに満たされる。

Ⅳ. 繁栄がもたらす罠(15~18節)

1. 15 節

Deu 32:15 エシュルンは肥え太ったとき、足で蹴った。/あなたは肥え太り、頑丈でつや やかになり、/自分を造った神を捨て、/自分の救いの岩を軽んじた。

- (1) エシュルンとは、イスラエルの詩的呼称である。
 - ①その意味は、「真っ直ぐな者」であるが、これは皮肉である。
 - ②イスラエルの反抗が家畜の行為にたとえられている。
 - *家畜は、肥え太ったとき、飼い主を足で蹴った。
 - *つまり、祝福に満たされると、【主】に反抗するという意味である。
- 2. 16~18 節

Deu 32:16 彼らは異なる神々で主のねたみを引き起こし、/忌み嫌うべきもので、主の怒りを燃えさせた。

Deu 32:17 彼らは、神ではない悪霊どもに/いけにえを献げた。/彼らの知らなかった神々に、/近ごろ出て来た新しい神々、/先祖が恐れもしなかった神々に。

Deu 32:18 あなたは自分を生んだ岩をおろそかにし、/産みの苦しみをした神を忘れてしまった。

- (1) イスラエルの民の反抗は、偶像礼拝の形を取ってやって来る。
 - ①これらの偶像は、先祖が知らず、恐れもしなかった神々である。
 - ②偶像にいけにえを献げるのは、悪霊どもに献げるのと同じである。
 - ③偶像礼拝への執着の背後に、悪霊の影響があったと思われる。 *彼らは、自分の子どもまで献げるようになる。
 - ④1 **3 9 10** : 20

1Co 10:20 むしろ、彼らが献げる物は、神にではなくて悪霊に献げられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。

- (2) 【主】は、ねたみの神である。
 - ①ご自身の栄光を、偶像と分け合うことはない。
 - ②イスラエルの民を偶像に奪われることは、許さない。

結論

1. 【主】のご性質(申32:4)

Deu 32:4 主は岩。主のみわざは完全。/まことに主の道はみな正しい。/主は真実な神で偽りがなく、/正しい方、直ぐな方である。

- (1) 人生の壁にぶつかったときは、【主】のご性質を思い起こす必要がある。
- (2) 主は岩である。

①詩 18:2

Psa 18:2 【主】はわが巌 わが砦 わが救い主/身を避けるわが岩 わが神。/わが盾 わが救いの角 わがやぐら。

- ②どこに立っているかで、私たちの人生の確かさが決まる。
- (3) 主は真実な神で、偽りがない。

①ピリ1:6

Php 1:6 あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。

2. 国々の相続地(申32:8)

Deu 32:8 いと高き方が、国々に相続地を持たせ、/人の子らを割り振られたとき、/イスラエルの子らの数にしたがって、/もろもろの民の境を決められた。

(1) 【主】は、国々(異邦人諸国)にそれぞれの相続地を割り振られた。

- ①人類史の初期の段階で、神は国々の相続地を決めておられた。
- ②ノアの洪水の後、3方向への人類の大移動が起った。

*アフリカは、「ハムの地」と呼ばれるようになった。

*ヨーロッパは、ヤペテの所有地となった。

*アジアは、セムの所有地となった。

③創 10:25

Gen 10:25 エベルには二人の息子が生まれ、一人の名はペレグであった。その時代に地が分けられたからである。彼の兄弟の名はヨクタンであった。

④エベルとペレグの時代に、バベルの塔事件で言葉が分化し、部分的離散が 起った。

- (2) 国々の領土の境は、その地で活動するイスラエル人の数に従って決められた。
 - ①アブラハム契約の付帯条項

*イスラエルを祝福する者は祝福され、のろう者はのろわれる。

- ②今も、これが神の国の外交政策である。
- ③人類史におけるイスラエルの重要性は、変わらない。

3. 繁栄がもたらす罠 (申 32:15)

Deu 32:15 エシュルンは肥え太ったとき、足で蹴った。/あなたは肥え太り、頑丈でつや やかになり、/自分を造った神を捨て、/自分の救いの岩を軽んじた。

(1) 使 26:15

Act 26:14 私たちはみな地に倒れましたが、そのとき私は、ヘブル語で自分に語りかける 声を聞きました。『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。とげの付いた棒を蹴るの は、あなたには痛い。』

- ①とげの付いた棒を蹴るとは、教会を迫害するという不毛の行為である。
- ②その行為は、自らの痛みとして戻って来る。
- ③サウロは、無知で、不信仰で、傲慢であった。
- (2) 使 28:26~28

Act 28:26 『この民のところに行って告げよ。/あなたがたは聞くには聞くが、/決して悟ることはない。/見るには見るが、決して知ることはない。

Act 28:27 この民の心は鈍くなり、/耳は遠くなり、目は閉じているからである。/彼らがその目で見ることも、耳で聞くことも、/心で悟ることも、立ち返ることもないように。 /そして、わたしが癒やすこともないように。』

Act 28:28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うことになります。」

申命記 55 回 「モーセの歌 (2)」 申 32:19~43

(朗読 申 32:19~33)

- 1. はじめに
 - (1) 4 つの説教が終わると、リーダーシップの移行がテーマとなる ($31\sim34$ 章)。
 - ①モーセからヨシュアへ (31:1~29)
 - ②モーセの歌 (31:30~32:43)
 - ③モーセの死の予告 (32:44~52)
 - ④モーセの祝福のことば(33章)
 - ⑤モーセの死 (34章)
 - (2) モーセの歌の文脈

①申 31:30

Deu 31:30 モーセはイスラエルの集会全体に聞こえるように、次の歌のことばを終わりまで唱えた。

- ②新しい世代のイスラエルは、モアブの野でシナイ契約を更新した。
- ③モーセはこの歌を民に教え、契約更新の際に歌わせた。
- (3) モーセの歌には預言的要素がある。
 - ①この歌は、【主】が真実なお方であることを証言している。
 - ②イスラエルの民は、背信の民となる。
 - ③【主】は、イスラエルの民に憐れみを示される。
 - ④【主】は、イスラエルの民の敵に復讐される。
- 2. モーセの歌の内容(31:30~32:43)
 - (1) イントロダクション (1~3節)
 - (2) 真実な神と不真実な民(4~9節)
 - (3) イスラエルに注がれた神の愛(10~14節)
 - (4) 繁栄がもたらす罠 (15~18節)
 - (5) 背信の民に下る【主】のさばき(19~27節)
 - (6) 思慮の欠けた国民 (28~33節)
 - (7) 神の憐れみと復讐(34~43節)
- 3. 結論

- (1) 【主】の御顔(申32:20)
- (2) 恵みの逆転(申32:21)
- (3) 異邦人の喜び (申 32:43)

モーセの歌について学ぶ。

- V. 背信の民に下る【主】のさばき(19~27節)
 - 1. 19~22 節

Deu 32:19 【主】は見て、彼らを突き放された。/主の息子と娘たちへの怒りゆえに。

Deu 32:20 主は言われた。/「わたしの顔を彼らから隠し、/彼らの終わりがどうなるかを見よう。/彼らは、ねじれた世代、/真実のない子らであるから。

Deu 32:21 彼らは、神でないもので/わたしのねたみを引き起こし、/彼らの空しいもので/わたしの怒りを燃えさせた。/わたしも、民でない者たちで/彼らのねたみを引き起こし、/愚かな国民で/彼らの怒りを燃えさせる。

Deu 32:22 火はわたしの怒りで燃え上がり、/よみの底まで燃えていく。/地とその産物を焼き尽くし、/山々の基まで焼き払う。

(1) イスラエルの背信 (繁栄がもたらす罠) の予告 (申 32:15)

Deu 32:15 エシュルンは肥え太ったとき、足で蹴った。/あなたは肥え太り、頑丈でつや やかになり、/自分を造った神を捨て、/自分の救いの岩を軽んじた。

- (2) 19~22 節は、背信に対する【主】のさばきの総論的描写である。
 - ①【主】の怒りは、ご自身の息子と娘たちに向けられたものである。
 - ②この怒りは、偶像に惹かれていくイスラエルの民に対する怒りである。
 - ③この怒りは、聖なる神が背教の民に示す義なる憤りである。
 - ④「わたしの顔を彼らから隠し、彼らの終わりがどうなるかを見よう」
 - ⑤顔を隠すとは、神の臨在がなくなることである。
 - ⑥神の臨在がなくなれば、イスラエルの民は滅びるしかない。
- (3) イスラエルの民は、偶像礼拝のゆえに、【主】の怒りを燃え立たせた。
 - ①【主】は、異邦人の国がイスラエルの民を滅ぼすようにされる。
 - ②もしイスラエルの民が【主】に従順であるなら、このようなことは起らない。
 - ③「**火が燃え上がる**」という比喩は、神の怒りの激しさを表現している。
 - ④イスラエルの民は、全面的な滅びを経験する。
 - ⑤【主】は、異邦人を祝福することで、イスラエルの民のねたみを引き起こす。 *これは、新約時代に起ることである。
- 2. 23~27節

Deu 32:23 わたしはわざわいを彼らの上に積み重ね、/わたしの矢を彼らに向けて射尽くす。

Deu 32:24 飢えによる荒廃、災害による壊滅、/激しい悪疫、野獣の牙、/これらを、地を這う蛇の毒とともに/彼らに送る。

Deu 32:25 外では剣が子を失わせ、/内には恐怖がある。/若い男にも若い女にも、/乳飲み子も白髪の老人にも。

Deu 32:26 わたしは思った。/彼らを一掃し、/人々から彼らの記憶を消してしまおうと。 Deu 32:27 もしも、わたしが敵のののしりを/気にかけなかったら――/彼らを苦しめる者どもが誤解してはいけない。/『われわれの手で勝ったのだ。/これはみな、【主】がしたことではない』/と言うといけない。」

- (1) 23~27 節は、【主】のさばきの具体的描写である。
- (2) 生活の全領域に被害が及ぶ。
 - ①飢えによる荒廃
 - ②災害による壊滅
 - ③激しい悪疫
 - ④野獣の牙
 - ⑤地を這う蛇の毒
 - ⑥外では剣(戦争)
 - ⑦内には恐怖
- (3) あらゆる年代の人々に被害が及ぶ。
 - ①若い男
 - ②若い女
 - ③乳飲み子
 - ④白髪の老人
- (4) イスラエルの民は、滅びても文句の言えない状態にあった。
 - ①しかし【主】は、イスラエルの民が滅びることをお許しにならなかった。
 - ②敵が、自力で勝ったと誤解することのないようにするためである。
 - ③敵が、勝ち誇ることのないようにするためである。

VI. 思慮の欠けた国民(28~33節)

1. 28~29節

Deu 32:28 まことに彼らは思慮の欠けた国民、/彼らのうちに英知はない。

Deu 32:29 もしも知恵があったなら、/彼らはこれを悟ったであろうに。/自分の終わりもわきまえたであろうに。

(1) イスラエルの民には知恵がないので、背信の結果を悟ることができなかった。 ①イザ $1:2\sim3$

Isa 1:2 天よ、聞け。地も耳を傾けよ。/【主】が語られるからだ。/「子どもたちはわたしが育てて、大きくした。/しかし、彼らはわたしに背いた。

Isa 1:3 牛はその飼い主を、/ろばは持ち主の飼葉桶を知っている。/しかし、イスラエルは知らない。/わたしの民は悟らない。」

② $1 = y \cdot 2 : 14$

1Co 2:14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。

2. 30~31節

Deu 32:30 彼らの岩が彼らを売らず、/【主】が彼らを引き渡されなかったなら、/どのようにして一人が千人を追い、/二人が万人を敗走させたであろうか。

Deu 32:31 まことに彼らの岩は私たちの岩に及ばない。/敵もこれを認めている。

- (1) 敵が圧倒的に勝利した理由
 - ①一人が千人を追い、二人が万人を敗走させた。
 - ②イスラエルの岩(【主】)がご自身の民を見捨てたからである。
- (2) 敵も自分の岩(偶像神)を持っていた。
 - ①しかし敵は、自分たちの岩がイスラエルの岩に及ばないことを認めている。
 - ③イスラエルの敵とは、アッシリヤとバビロンである。

3. 32~33 節

Deu 32:32 まことに彼らのぶどうの木は、/ソドムのぶどうの木から、/ゴモラのぶどう 畑からのもの。/彼らのぶどうは毒ぶどう。/その房は苦い。

Deu 32:33 そのぶどう酒は蛇の毒、/コブラの恐ろしい毒。

- (1) イスラエルの敵が、ソドムとゴモラのぶどうの木にたとえられている。
 - ①毒ぶどう、その房は苦い。
 - ②そのぶどう酒は蛇の毒、コブラの恐ろしい毒。
- (2) イスラエルを滅ぼす敵は、ソドムとゴモラのように堕落している。 ①その敵以上に、イスラエルの民は堕落している。

Ⅷ. 神の憐れみと復讐(34~43節)

1. 34~35 節

Deu 32:34 「これはわたしのもとに蓄えてあり、/わたしの倉に封じ込められているではないか。

Deu 32:35 復讐と報復はわたしのもの。/それは彼らの足がよろめくときのため。/彼らのわざわいの日は近く、/来たるべき時が速やかに来る。|

- (1) 時が来れば、神はイスラエルの敵に復讐される。
 - ①これ(憐れみと復讐)は、【主】が事前に用意しておられるものである。
 - ②【主】は、イスラエルの背信を裁くための道具として、敵をお用いになる。
 - ③しかし【主】は、イスラエルの民を攻撃した者を罰する。

2. 36~38 節

Deu 32:36 【主】は御民をかばい、/主のしもべらをあわれまれる。/彼らの力が去り、/奴隷も自由の者も/いなくなるのをご覧になって。

Deu 32:37 主は言われる。/「彼らの神々はどこにいるのか。/彼らが身を避けた岩はどこにあるのか。

Deu 32:38 彼らのいけにえの脂肪を食らい、/注ぎのぶどう酒を飲んだ者どもは/どこにいるのか。/彼らを立たせて、あなたがたを助けさせ、/あなたがたの隠れ場とならせよ。

- (1) 【主】は、イスラエルの民に憐れみを示される。
 - ①イスラエルの民の力が尽きたとき
 - ②偶像への信頼が崩れたとき
 - ③【主】だけを信頼するようになったとき
- (2) 偶像に助けを求めるのがよいというのは、皮肉である。
 - ①これは無駄な努力である。

3. 39~42 節

Deu 32:39 今、見よ、わたし、わたしこそがそれである。 / わたしのほかに神はいない。 / わたしは殺し、また生かす。 / わたしは傷つけ、また癒やす。 / わたしの手からは、だれも救い出せない。

Deu 32:40 まことに、わたしは誓って言う。/『わたしは永遠に生きる。

Deu 32:41 わたしが、きらめく剣を研ぎ、/手にさばきを握るとき、/わたしは敵に復讐をし、/わたしを憎む者たちに報いる。

Deu 32:42 わたしの矢を血に酔わせ、/わたしの剣に肉を食わせる。/刺し殺された者や捕らわれ人の血に酔わせ、/敵のかしらたちの首を食わせる。』

- (1) イスラエルの民をさばく目的
 - ①滅ぼすためではなく、【主】のほかに神はいないことを教えるためである。
 - ②【主】だけが、命と死を決める権威を持っておられる。

③敵をさばくのも【主】の御業である。

- (2) 【主】は、別の民を用いてイスラエルの敵をさばかれる。
 - ①「きらめく剣」とは、【主】が敵をさばくために用いる別の民である。
 - ②【主】のさばきは、徹底的に実行される。
 - ②この復讐により、イスラエルの民とその地は、解放される。

4. 43 節

Deu 32:43 国々よ、御民のために喜び歌え。/主がご自分のしもべの血に報復し、/ご自分の敵に復讐を遂げて、/ご自分の民とその地のために宥めを行われる。

(1) 「国々よ、御民のために喜び歌え」

Deu 32:1 天よ、耳を傾けよ。私は語ろう。/地よ、聞け。私の口のことばを。

- ①【主】の御業は、全人類に影響を及ぼす。
- ②「**御民のために喜び歌え**」という訳に疑問がある。
- ③ 「Rejoice, O ye nations, with his people.」 (ASV)
- ④喜び歌う理由は、【主】がイスラエルの民のために報復されたことである。
- ⑤それゆえ、異邦人諸国は、イスラエルの民とともに喜び歌うのである。

結論

1. 【主】の御顔(申 32:20)

Deu 32:20 主は言われた。/「わたしの顔を彼らから隠し、/彼らの終わりがどうなるかを見よう。/彼らは、ねじれた世代、/真実のない子らであるから。

(1) 詩 30:7~8

Psa 30:7 【主】よ あなたはご恩寵のうちに/私を私の山に堅く立たせてくださいました。 /あなたが御顔を隠されると/私はおじ惑いました。

Psa 30:8 【主】よ あなたを私は呼び求めます。/私の主にあわれみを乞います。

(2) $\forall 9 \ 27 : 45 \sim 46$

Mat 27:45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。

Mat 27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

2. 恵みの逆転 (申 32:21)

Deu 32:21 彼らは、神でないもので/わたしのねたみを引き起こし、/彼らの空しいもので/わたしの怒りを燃えさせた。/わたしも、民でない者たちで/彼らのねたみを引き起こし、/愚かな国民で/彼らの怒りを燃えさせる。

(1) ロマ10:19

Rom 10:19 では、私は尋ねます。イスラエルは知らなかったのでしょうか。まず、モーセがこう言っています。/「わたしは、民でない者たちで/あなたがたのねたみを引き起こし、/愚かな国民で/あなたがたの怒りを燃えさせる。」

(2) ロマ11:13~14

Rom 11:13 そこで、異邦人であるあなたがたに言いますが、私は異邦人への使徒ですから、 自分の務めを重く受けとめています。

Rom 11:14 私は何とかして自分の同胞にねたみを起こさせて、彼らのうち何人かでも救いたいのです。

3. 異邦人の喜び(申 32:43)

Deu 32:43 国々よ、御民のために喜び歌え。/主がご自分のしもべの血に報復し、/ご自分の敵に復讐を遂げて、/ご自分の民とその地のために宥めを行われる。

(1) ロマ15:10

Rom 15:10 また、こう言われています。/「異邦人よ、主の民とともに喜べ。」

- (2) モーセの歌の要約
 - ①【主】は、イスラエルの民の罪をさばかれる。
 - ②しかし、イスラエルの民が滅びることはない。
 - ③【主】は、異邦人のゆえに、イスラエルの民のねたみを引き起こす。
 - ④やがてイスラエルは救われる。
 - ⑤異邦人も、イスラエルの民とともに喜ぶようになる。

申命記 56回 「モーセの死の予告」 申 32:44~52

- 1. はじめに
 - (1) 4 つの説教が終わると、リーダーシップの移行がテーマとなる(31~34章)。
 - ①モーセからヨシュアへ (31:1~29)
 - ②モーセの歌 (31:30~32:43)
 - ③モーセの死の予告 (32:44~52)
 - ④モーセの祝福のことば(33章)
 - ⑤モーセの死 (34章)
 - (2) 文脈の確認
 - ①モーセは、モーセの歌を語り聞かせた。
 - ②【主】はモーセに、死の準備を始めるように命じられた。
 - ③この箇所は、イスラエルの民に対するモーセの遺言である。
- 2. アウトライン
 - (1) 最後の勧告を出すモーセ (44~47節)
 - (2) ネボ山に上るモーセ(48~52節)
- 3. 結論
 - (1) 空虚なことばか、いのちのことばか。
 - (2) 不当な裁きか、正当な裁きか。

モーセの死の予告について学ぶ。

- I. 最後の勧告を出すモーセ(44~47節)
 - 1. 44 節

Deu 32:44 モーセはヌンの子ホセアと一緒に行って、この歌のすべてのことばを民の耳に 語り聞かせた。

- (1) モーセは、次のリーダーであるヨシュアをそばに置いた。
 - ①ここでは、ヌンの子ホセアと書かれている。
 - ②モーセは、ホセアをヨシュアと名づけた(民13:16)。

Num 13:16 以上が、モーセがその地の偵察のために遣わした者の名である。モーセはヌンの子ホセアをヨシュアと名づけた。

③ホセアは、「救い」という意味である。

- ④ヨシュアは、「【主】は救い」という意味である。
- ⑤モーセが書く場合は、必ずヨシュアという名を使う。
- ⑤ヌンの子ホセアとなっているのは、編集者の筆であることを示している。
- (2) モーセは、【主】からの啓示によって歌を作り、すべて民に語り聞かせた。 ①朗読は、モーセとヨシュアの共同作業である。
- (3) モーセの歌には預言的要素がある。
 - ①この歌は、【主】が真実なお方であることを証言している。
 - ②イスラエルの民は、背信の民となる。
 - ③【主】は、イスラエルの民に憐れみを示される。
 - ④【主】は、イスラエルの民の敵に復讐される。

2. 45~46 節

Deu 32:45 モーセはイスラエル全体にこのことばをみな語り終えて、

Deu 32:46 彼らに言った。「あなたがたは、私が今日あなたがたを戒める、このすべてのことばを心にとどめなさい。それをあなたがたの子どもたちに命じて、このみおしえのすべてのことばを守り行わせなさい。

- (1) 歌の朗読を終えると、モーセは最後の勧告を出した。
 - ①歌の内容を心にとどめよ。
 - ②そればかりか、律法のことばをすべて心にとどめよ。
 - ③シナイ契約の条項を子どもたちに教えよ。
 - ④その条項のすべてを実行させよ。

3. 47 節

Deu 32:47 これは、あなたがたにとって空虚なことばではなく、あなたがたのいのちであるからだ。このことばによって、ヨルダン川を渡って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことになる。」

- (1) 歌の内容は、むなしいことばではない。
 - ①この歌は、背教に下る裁きの厳しさを教えている。
 - ②それゆえ、この歌は、背教に対する歯止めとなる。
 - ③これに従えば、いのちを守ることになる。
- (2) この警告は、申30:19~20と同じ内容である。

Deu 30:19 私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、

Deu 30:20 あなたの神、【主】を愛し、御声に聞き従い、主にすがるためである。まことにこの方こそあなたのいのちであり、あなたの日々は長く続く。あなたは、【主】があなたの父祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われたその土地の上に住むことになる。

Ⅱ. ネボ山に上るモーセ (48~52節)

1. 48~49 節

Deu 32:48 この同じ日に【主】はモーセに告げられた。

Deu 32:49 「エリコの向かいにあるモアブの地の、このアバリム高地のネボ山に登り、わたしがイスラエルの子らに与えて所有させようとしているカナンの地を見よ。

- (1) 【主】は、ネボ山に上るように、モーセに告げられた。
 - ①「この同じ日に」は、モーセが使命をすべて果たし終えたことを示している。
- (2) ネボ山は、モアブの地にある山である。
 - ①アバリムとは、「かなたの地方」という意味である。
 - ②標高約1,000メートルで、2つの峰がある。
 - ③北の峰をピスガの頂(申34:1)、南の峰をネボ山と呼ぶ。
 - ④ネボという名の偶像が存在していた。
 - ⑤イザ 46:1

Isa 46:1 「ベルはひざまずき、ネボはかがむ。/彼らの像は獣と家畜に載せられる。/あなたがたの荷物は、/疲れた動物の重荷となって運ばれる。

*ベルはバビロンの偶像メロダクと同じ。太陽神。

*ネボはベルの息子である。占星術の神。

- (3) モーセは、ネボ山で死ぬことになる。
 - ①【主】は恵みによって、モーセがカナンの地を見ることを許された。
 - ②そこからは死海の北端、ユダの山地、ヨルダン渓谷を眺望することができた。

2. 50 節

Deu 32:50 あなたの兄弟アロンがホル山で死んで、その民に加えられたように、あなたも、これから登るその山で死に、あなたの民に加えられる。

- (1) 兄のアロンはホル山で死んで、その民に加えられた(民33:38)。
 - ①「**民にくわえられた**」は、死後のいのちを保証することばである。

- (2) モーセは、約束の地に入ることができない。
 - ①彼は、ネボ山で死ぬ。
 - ②彼もまた、自分の民に加えられる。

3. 51~52 節

Deu 32:51 それは、あなたがたがツィンの荒野のメリバテ・カデシュの水のほとりで、イスラエルの子らの間でわたしの信頼を裏切り、イスラエルの子らの間で、わたしを聖なる者としなかったからである。

Deu 32:52 あなたは、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地を目の前に見るが、その地へ入って行くことはできない。」

- (1) モーセがカナンの地に入れない理由が告げられる。
 - ①ツィンの荒野のメリバテ・カデシュの水のほとりでの出来事が原因である。
 - ②この場所で、モーセとアロンは【主】の命令に背いた。
 - ③【主】への敬意を示さなかった。
- (2) 民 $20:1\sim13$
 - ①【主】は、水を出すために岩に命じるようにモーセに告げた。
 - ②モーセは、岩に命じる代わりに、岩を杖で二度打った。
 - ③そして、怒りを込めて、彼とアロンが水を出したかのように語った。
 - ④その結果、モーセは約束の地に入ることができなくなった。

結論

- 1. 空虚なことばか、いのちのことばか。
 - (1) 申 32:47

Deu 32:47 これは、あなたがたにとって空虚なことばではなく、あなたがたのいのちであるからだ。このことばによって、ヨルダン川を渡って行って所有しようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くことになる。」

- ①これは、モーセの遺言である。
- ②これは、モーセの魂の叫びである。
- (2) 1 コリ 15:3~5 (パウロの魂の叫び)

1Co 15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、 次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこ と

1Co 15:4 また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、

1Co 15:5 また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

(3) 2ペテ1:16~18 (ペテロの魂の叫び)

2Pe 1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったのではありません。私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。

2Pe 1:17 この方が父なる神から誉れと栄光を受けられたとき、厳かな栄光の中から、このような御声がありました。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」
2Pe 1:18 私たちは聖なる山で主とともにいたので、天からかかったこの御声を自分で聞きました。

2. 不当な裁きか、正当な裁きか。

- (1) 一度の不従順で、カナンの地に入れなくなるのは不当ではないか。
- (2) これは正当な裁きである。
- (3) 民 20:1~13の内容
 - ①民は、水がないと言って、モーセとアロンに逆らった。
 - ②モーセとアロンは、いつものように主の前にお伺いを立てた。
 - ③【主】から与えられた3つの命令 *杖を取れ、会衆を集めよ、岩に命じよ。
 - ④モーセは杖を取り、アロンとともに、民を岩の前に集めた。
 - ⑤モーセは怒りに満たされ、冷たい言葉を吐いた。
 - *「逆らう者たちよ。さあ、聞け」
 - ⑥モーセは、【主】に栄光を帰さず、自分たちが水を出すかのように語った。
 - ⑦さらにモーセは、岩に命じる代わりに、その岩を杖で2度打った。
 - ⑧水は出たが、モーセとアロンは民を約束の地に導くという特権を奪われた。
- (4) これは、聖書に記録されているモーセの唯一の罪である。
- (5) しかし神は、この罪を重大なものと判断された。
 - ①怒りの罪、反逆の罪、自己中心の罪、不信仰の罪などが行為の背後にある。
- (6) これを境に、民を約束の地に導くのは【主】であることが明らかになった。
- (7) 私たちへの教訓
 - ①律法の代表であるモーセは、約束の地に入ることができない。
 - ②律法は罪を示すが、罪を取り去ることはできない。
 - ③一点でも違反すれば、律法の全体を破ったことになる。
 - ④民を約束の地に導く役割は、ヨシュアに与えられた。
 - ⑤ヨシュアとは、【主】は救いという意味である。
 - ⑥イエスという名はヘブル語でヨシュアである。
 - ⑦私たちを天国に導くのは、主イエスである。
 - ⑧私たちは、律法によって救われるのではなく、恵みによって救われる。

申命記 57回

「モーセの祝福のことば」

申 33:1~29 (朗読 33:1~5)

- 1. はじめに
 - (1) 4 つの説教が終わると、リーダーシップの移行がテーマとなる(31~34章)。
 - ①モーセからヨシュアへ(31:1~29)
 - ②モーセの歌 (31:30~32:43)
 - ③モーセの死の予告 (32:44~52)
 - ④モーセの祝福のことば(33章)
 - ⑤モーセの死 (34章)
 - (2) 文脈の確認
 - ①モーセは、モーセの歌を語り聞かせた。
 - ②モーセは、【主】の命令によって死の準備を始めた。
 - ③モーセは、12部族に対して最後の祝福のことばを語った。
- 2. アウトライン
 - (1) イントロダクション (1節)
 - (2) 【主】を賛美することば(2~5節)
 - (3) 12 部族を祝福することば($6\sim25$ 節)
 - (4) まとめのことば (26~29節)
- 3. 結論:新約時代の信者に対する励ましのことば

モーセの祝福のことばについて学ぶ。

- I. イントロダクション(1節)
 - 1. 1節

Deu 33:1 次は神の人モーセが、その死を前にしてイスラエルの子らを祝福した、祝福のことばである。

- (1) これは、散文(韻を踏んでいない通常の文体)によるイントロダクション。
 - ①イスラエルでは、死の目前に控えた父が子どもを祝福する習慣があった。
 - ②創世記49章のヤコブの祝福が、最も有名である。
 - ③モーセは、いろいろな意味においてイスラエルの父であった。
- (2) 12 部族のリスト

- ①ョセフ族がマナセ族とエフライム族として出て来る場合は、レビ族が省略 されることが多い。
- ②この箇所では、シメオン族が省略されている。 *恐らく、その領土がユダ族に吸収されるからであろう。
- ③珍しい単語が出て来るので、解釈が難しい箇所がある。

Ⅱ. 【主】を賛美することば(2~5節)

1. 2節

Deu 33:2 彼は言った。/「【主】はシナイから来て、/セイルから彼らを照らし、/パランの山から光を放ち、/幾万もの聖なる者のところから/近づいて来られる。/その右手に彼らの御使いたちを伴って。

- (1) 【主】への賛美は、出エジプトの出来事から始まっている。
 - ①出エジプトの出来事は、イスラエルという国を造った一大事件である。
 - ②【主】はシナイ山に現れ、モーセを通して律法を付与された。
 - ③国が出来るためには、国民、法体系、土地が必要であった。
- (2) シナイ山での【主】の顕現の描写
 - ①セイル山から来られたようであった。*シナイ山の北東、エドムの地にある山
 - ②パランの山から来られたようでもあった。 *シナイ山の北、パランの荒野にある山
 - ③パランの山とセイル山は、シナイ山から約束の地に移動するルートにある。
 - ④【主】の顕現の場面には、天使たちもいた。
- 2. 3~5節

Deu 33:3 まことに、あなたはもろもろの民を愛する方、/御手のうちにすべての聖なる者がいる。/彼らはあなたの足もとにひれ伏し、/あなたの御告げを受ける。

Deu 33:4 みおしえはモーセが私たちに命じ、/それをヤコブの会衆の所有とした。

Deu 33:5 民のかしらたちが/イスラエルの部族とともに集まったとき、/主はエシュルンで王となられた。」

- (1) 【主】はイスラエルの民を愛するお方である。
 - ①御手のうちにすべての「聖なる者」 (天使) がいる。
 - ②天使たちは【主】から御告げを受け、それをモーセに伝えた。
 - ③モーセは、天使たちから受けた律法を民に伝えた(使7:38)。
- (2) 【主】はイスラエルの民の王となられた。

①エシュルンとは、イスラエルのことである。

②申 33:5 (新共同訳)

Deu 33:5 民の長たちがイスラエルの諸族と共に集うとき/主はエシュルンの王として臨まれる。

③王である【主】の命令に従うなら、約束の地で祝された生活ができる。

Ⅲ. 12 部族を祝福することば(6~25 節)

1. ルベン (6節)

Deu 33:6 「ルベンは生きて、死なないように。/その人数が少なくても。」

(1) ルベン族は、性格上の欠陥により、人口の減少を経験するようになる。

① $\pm 5:15\sim16$

Jdg 5:15 イッサカルの長たちはデボラとともにいた。/イッサカルはバラクと同じく/歩 兵たちとともに平地に送られた。/ルベンの諸支族の決意は固かった。

Jdg 5:16 なぜ、あなたは二つの鞍袋の間に座って、/羊の群れに笛吹くのを聞いていたのか。/ルベンの諸支族の間には、深い反省があった。

2. ユダ (7節)

Deu 33:7 ユダについては、こう言った。/「【主】よ。ユダの声を聞き、/彼をその民のもとに連れ戻してください。/彼は自分の手で戦っています。/彼の敵の前で助けとなってください。」

- (1) ユダ族は、軍団の先頭に立つ(民2:9)。
 - ①それゆえ、戦いにおける守りを求める祈りとなっている。

3. レビ (8~11節)

Deu 33:8 レビについては、こう言った。/「あなたのトンミムとウリムを、/あなたにある敬虔な者に与えてください。/あなたは彼をマサで試み、/メリバの水のほとりで彼と争われました。

Deu 33:9 彼は自分の父と母について/『私は彼らを顧みない』と言い、/自分の兄弟も認めず、/自分の子さえ知らないとし、/ただ、あなたの仰せのことばを守り、/あなたの契約から目を離しませんでした。

Deu 33:10 彼らはあなたの定めをヤコブに、/あなたのみおしえをイスラエルに教えます。 /彼らはあなたの御前で香をたき、/全焼のささげ物をあなたの祭壇に献げます。

Deu 33:11 【主】よ。彼の財産を祝福し、/その手のわざを受け入れてください。/彼に向かい立つ者の腰を打ち砕き、/彼を憎む者たちが/立ち上がれないようにしてください。」

(1) レビ族の経歴

- ①トンミムとウリムは、レビ族に委ねられた。
- ②レビ族の代表モーセは、マサとメリバの水のほとりで民から非難された。
- ③金の子牛事件では、レビ族は【主】の側に付いた。
- (2) レビ族のための祈り
 - ①レビ族は、祭司として奉仕をする。
 - ②レビ族の生活が祝福されるように。
 - ③レビ族を憎む者が、裁きに会うように。
- 4. ベニヤミン (12節)

Deu 33:12 ベニヤミンについては、こう言った。/「【主】に愛されている者。/彼は安らかに主のそばに住まい、/主はいつも彼をかばう。/彼は主の背中に負われる。」

- (1) 神殿はベニヤミン族の領地に置かれることになる。
 - ①ベニヤミン族は、【主】に愛されている者である。
 - ②ベニヤミン族は、神殿にそばに住まい、【主】との交わりを楽しむ。
 - ③ベニヤミン族は、【主】の背中に負われる。
- 5. ヨセフ (13~17節)

Deu 33:13 ヨセフについては、こう言った。/「彼の地は【主】に祝福されたもの。/天の賜物の露、/下に横たわる大いなる水の賜物、

Deu 33:14 太陽がもたらす賜物、/月が生み出す賜物、

Deu 33:15 いにしえの山々からの最上のもの、/永遠の丘からの賜物、

Deu 33:16 地とそこに満ちているものの賜物、/柴の茂みの中におられた方の恵み、/これらがヨセフの頭の上に、/その兄弟たちの中から選り抜かれた者の/頭の頂に臨むように。

Deu 33:17 彼の牛の初子には威厳があり、/その角は野牛の角。/これをもって地の果ての果てまで、/もろもろの民をことごとく突き倒して行く。/このような者がエフライムに幾万、/このような者がマナセに幾千。」

- (1) ヨセフ族の領地は、天からの露と、地からの泉によって潤う。
 - ①その地での産物は、豊かに実る。
- (2) ヨセフの 2 人の息子、エフライムとマナセは、諸国を征服するようになる。
 - ①弟のエフライムが長子の権を得た。幾万とある。
 - ②兄のマナセに関しては、幾千とある。
- 6. ゼブルンとイッサカル (18~19節)

Deu 33:18 ゼブルンについては、こう言った。/「ゼブルンよ、喜べ。/あなたが外に出て行くときに。/イッサカルよ、あなたは天幕の中で。

Deu 33:19 彼らはもろもろの民を山に招き、/そこで義のいけにえを献げる。/彼らが海の富と、砂に隠されている宝で/育まれるからである。」

- (1) ゼブルンとイッサカルは、諸国民をエルサレムに導くようになる。
 - ①この預言は成就していない。
 - ②メシア的王国(千年王国)で成就すると思われる。
- 7. ガド (20~21 節)

Deu 33:20 ガドについては、こう言った。/「ガドの土地を広げる方はほむべきかな。/ ガドは雌獅子のように伏し、/腕や頭の頂をかみ裂く。

Deu 33:21 彼は自分のために最良の地を見つけた。/そこには指導者の分が割り当てられていたのだ。/彼は民の先頭に立ち、/【主】の正義と/主の公正をイスラエルのために行った。」

- (1) ガド族は、ヨルダン川の東に領地を得た。
 - ①そこは、牧畜に最適な地である。
 - ② そこは、指導者が得るような地である。
 - ③ガド族は、ヨルダン川の西での戦いにも参戦した。
- 8. ダン (22 節)

Deu 33:22 ダンについては、こう言った。/「ダンは獅子の子。/バシャンから躍り出る。」

- (1) ダンは、獅子の子のように勇猛である。
 - ①ダン族は、カナンの地の南西部に領地を得たが、そこから北方に移住した。
 - ②彼らは、バシャンに面した土地を得た。
- 9. ナフタリ (23節)

Deu 33:23 ナフタリについては、こう言った。/「ナフタリは恵みに満ち足り、/【主】の祝福に満ちている。/彼は西と南を所有せよ。」

- (1) ナフタリ族は、カナンの地の北西に領地を得た。
 - ①南の境界線は、ガリラヤ湖であった。
 - ②【主】の祝福が約束された。
- 10. アシェル (24~25 節)

Deu 33:24 アシェルについては、こう言った。/「アシェルは子らの中で/最も祝福されている。/その兄弟たちに愛されて、/その足を油の中に浸すようになれ。

Deu 33:25 あなたのかんぬきは鉄と青銅。/あなたの力が、生きるかぎり続くように。」

- (1) アシュル族に祝福が約束された。
 - ①彼らは、他の部族との平和な関係を維持する。
 - ②豊かなオリーブ油を産出するようになる。
 - ③鉄と青銅は、安全を暗示する言葉である。

IV. まとめのことば (26~29節)

1. 26~27 節

Deu 33:26 「エシュルンよ、/神に並ぶ者はほかにない。/神はあなたを助けるため天に乗り、/威光のうちに雲に乗られる。

Deu 33:27 いにしえよりの神は、住まう家。/下には永遠の腕がある。/神はあなたの前から敵を追い払い、/『根絶やしにせよ』と命じられた。

- (1) 「エシュルンよ」は、イスラエルの民に対する呼びかけの言葉である。
- (2) イスラエルの神は、比類なきお方である。
 - ①【主】は、天を駆け、雲に乗られるお方である。
 - ②【主】は、苦難の時の避け所である。
 - ③【主】は、永遠の腕で支えてくださる。
 - ④【主】は、イスラエルの前から敵を追い払われる。

2. 28~29節

Deu 33:28 こうしてイスラエルは安らかに住まい、/ヤコブの泉だけが/穀物と新しいぶどう酒の地を満たす。/天も露を滴らす。

Deu 33:29 幸いなイスラエルよ、/だれがあなたのような、/【主】に救われた民であろうか。/主はあなたを助ける盾、あなたの勝利の剣。/敵はあなたに屈し、/あなたは彼らの背を踏みつける。」

- (1) 神への従順がもたらすもの
 - ①イスラエルの民は、カナンの地を征服できる。
 - ②カナンの地での豊かな生活が保障される。
 - ③イスラエルの民は、地上において偉大な民となる。

結論:新約時代の信者に対する励ましのことば

1. ヨハネ 15:5

Joh 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

申命記 58回

「モーセの死」

申 $34:1\sim12$

1. はじめに

- (1) 4 つの説教が終わると、リーダーシップの移行がテーマとなる ($31\sim34$ 章)。
 - ①モーセからヨシュアへ (31:1~29)
 - ②モーセの歌 (31:30~32:43)
 - ③モーセの死の予告 (32:44~52)
 - ④モーセの祝福のことば(33章)
 - ⑤モーセの死 (34章)
- (2) 文脈の確認
 - ①モーセは、モーセの歌を語り聞かせた。
 - ②モーセは、【主】の命令によって死の準備を始めた。
 - ③モーセは、死を前にして、12部族に最後の祝福のことばを語った。
 - ④モーセは、ネボ山に登り、そこで死ぬ。

2. アウトライン

- (1) 約束の地の展望(1~4節)
- (2) モーセの死 (5~8節)
- (3) 後継者ヨシュア (9節)
- (4) 追悼の言葉 (10~12節)

3. 結論

- (1) 預言的エンディング
- (2) モーセから学ぶ教訓

モーセの死について学ぶ。

- Ⅰ. 約束の地の展望(1~4節)
 - 1. 1~3節

Deu 34:1 モーセはモアブの草原からネボ山、すなわち、エリコの向かいにあるピスガの頂に登った。【主】は彼に次の全地方をお見せになった。ギルアデをダンまで、

Deu 34:2 ナフタリの全土、エフライムとマナセの地、ユダの全土を西の海まで、

Deu 34:3 ネゲブと低地を、すなわち、なつめ椰子の町エリコの平地をツォアルまで。

- (1) 【主】の命令に従って、モーセはネボ山に登った。
 - ①アバリム高原は、標高約1,000メートルで、2つの峰がある。
 - ②北の峰をピスガの頂、南の峰をネボ山と呼ぶ。
 - ③【主】はモーセに、約束の地をお見せになった。
- (2) 北から南へ、反時計回りに視線が動いて行く。
 - ①ギルアデをダンまで *ギルアデは、ヨルダン川の東の地で、ダンはその北に位置する。
 - ②ナフタリの全土 *約束の地の北部
 - ③エフライムとマナセの地 *約束の地の中央部
 - ④ユダの全土を西の海まで *約束の地の南部で、西の海は地中海。
 - *ピスガの頂からは地中海は見えない。【主】の御手が働いたと思われる。
 - ⑤ネゲブと低地を、すなわち、なつめ椰子の町エリコの平地をツォアルまで *約束の地の南部と死海地方
 - *エリコはなつめ椰子の町と呼ばれている。

2. 4節

Deu 34:4 そして【主】は彼に言われた。「わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに『あなたの子孫に与える』と誓った地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたがそこへ渡って行くことはできない。」

- (1) 【主】は、アブラハム、イサク、ヤコブに誓ったことを実行される。
 - ①モーセの五書(トーラー)は、本来は1冊の書である。
 - ②読者は、新しい世代のイスラエルの民である。
 - ③モーセは、創造主がカナンの地を与えてくださることを伝えようとした。
 - ④アブラハム契約がそのことを保証している。
- (2) モーセは、約束の地に渡って行くことはできない。
 - ①民 20:1~13 に記された罪のゆえである。
 - ②リーダーが代わっても、【主】の計画は前進して行く。

Ⅱ. モーセの死(5~8節)

1. 5~6 節

Deu 34:5 こうしてその場所で、【主】のしもベモーセは【主】の命によりモアブの地で死んだ。

Deu 34:6 主は彼を、ベテ・ペオルの向かいにあるモアブの地の谷に葬られたが、今日に至るまで、その墓を知る者はいない。

- (1) モーセは、ピスガの頂で、つまり、モアブの地で死んだ。
 - ①一つの罪のゆえに約束の地に入れなかったが、【主】のしもべとして死んだ。
- (2) 【主】ご自身が、モーセの遺体を葬った。
 - ①これは、モーセにとって名誉なことである。
 - ②今日に至るまで、その墓を知る者はいない。

 *墓が聖地となり、偶像礼拝の場とならないようにするためである。
 - ③ベテ・ペオルの向かいにあるモアブの地の谷(申3:29)

Deu 3:29 こうして私たちは、ベテ・ペオルの前にある谷にとどまった。

④この谷に宿営している期間に、モーセは申命記5~33章の説教を語った。

2. 7節

Deu 34:7 モーセが死んだときは百二十歳であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。

- (1) モーセが約束の地に入れないのは、健康上の理由ではない。
 - ①彼は120歳で死んだが、目はかすまず、気力も衰えていなかった。
 - ②彼は、霊的理由で約束の地に入れないのである。

3. 8節

Deu 34:8 イスラエルの子らはモアブの草原で三十日間、モーセのために泣き悲しんだ。こうして、モーセのために泣き悲しむ喪の期間は終わった。

- (1) イスラエルの民は、モーセのために30日間喪に服した。
 - ①通常は、服喪期間は7日間である。
 - ②創 50:10

Gen 50:10 彼らは、ヨルダンの川向こう、ゴレン・ハ・アタデに着いて、そこで、たいへん立派で荘厳な哀悼の式を行った。ヨセフは父のため七日間、葬儀を行った。

③アロンの場合は、30日間(民20:29)。

Num 20:29 全会衆はアロンが息絶えたのを知った。そのためイスラエルの全家は三十日の間、アロンのために泣き悲しんだ。

(2) 泣き悲しむ喪の期間は、次に進むために必要なものである。 ①喪が明けたなら、新しい生活が待っている。

Ⅲ. 後継者ヨシュア (9節)

1. 9節

Deu 34:9 ヌンの子ョシュアは知恵の霊に満たされていた。モーセがかつて彼の上にその手を置いたからである。イスラエルの子らは彼に聞き従い、【主】がモーセに命じられたとおりに行った。

- (1) ヨシュアは、聖霊に満たされていた。
 - ①聖霊は、イスラエルの民を導くために必要な知恵を与える。
 - ②モーセの按手によって、聖霊が与えられた(申31:7)。

Deu 31:7 それからモーセはヨシュアを呼び寄せ、全イスラエルの目の前で彼に言った。 「強くあれ。雄々しくあれ。【主】がこの民の父祖たちに与えると誓われた地に、彼らとと もに入るのはあなたであり、それを彼らに受け継がせるのもあなたである。

- (2) イスラエルの民は、ヨシュアに聞き従った。
 - ①しかし、ヨシュアはモーセのようではなかった。
 - ②次の追悼の言葉が、それを示している。

Ⅳ. 追悼の言葉(10~12節)

1. 10 節

Deu 34:10 モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼は、【主】 が顔と顔を合わせて選び出したのであった。

- (1) モーセは、すべての預言者たちの中で特別な存在であった。
 - ①【主】とは「顔と顔を合わせて」語り合う、つまり友人の関係であった。

②出 33:11

Exo 33:11 【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセと語られた。 モーセが宿営に帰るとき、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が天幕から離れないで いた。

2. 11~12 節

Deu 34:11 それは、【主】が彼をエジプトの地に遣わして、ファラオとそのすべての家臣 たち、およびその全土に対して、あらゆるしるしと不思議を行わせるためであり、

Deu 34:12 また、モーセが全イスラエルの目の前で、あらゆる力強い権威と、あらゆる恐るべき威力をふるうためであった。

(1) モーセは、【主】からエジプトに派遣された。

- ①エジプトで、あらゆるしるしと不思議を行った。
- (2) モーセは、イスラエルの歴史の中に新しい時代をもたらした。 ①律法の時代がそれである。

結論

- 1. 預言的エンディング
 - (1) イスラエルの民は、モーセのような一人の預言者を待ち望むようになった。 ①申 18:15

Deu 18:15 あなたの神、【主】はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたのために起こされる。あなたがたはその人に聞き従わなければならない。

- (2) 主イエスは、その預言の成就として来られた。
 - ①それ以上のお方として来られた(7 3:1 6)。
 - ②主のしもべ、神の子
 - ③主イエスは、イスラエルの歴史に新しい時代をもたらされた。
 - ④それが、恵みの時代である。
 - ⑤イスラエルの民は、メシアとして来られたお方を拒否した。
- (3) モーセの歌は、イスラエルの民の霊的回復を預言していた。 ①終わりに日に、イスラエルはみな救われる。
- 2. モーセから学ぶ教訓
 - (1) 人は、かくも神と近い関係を持つことが出来る。
 - (2) モーセは死んだが、今も生きている。
 - ①マタ17:1~3 (変貌山の出来事)
 - (3) 私たちも、やがて栄光の主を拝することになる。